

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 名古屋市立神の倉幼稚園 (※正式名称を記載)
種 別 ☒ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}
☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む
所在地 〒458 - 0812
名古屋市緑区神の倉四丁目210番地
E-mail kaminokura-k@nagoya-c.ed.jp
Website
幼児児童生徒数 男子 40 名 女子 53 名 合計 93 名
幼児・児童・生徒の年齢 3 歳～ 5 歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本園は、テーマを「育てよう小さな命、探そう自然の不思議」として、ESDの研究に取り組んだ。

幼児は身近な環境に好奇心や探究心をもって主体的にかかわり、自分の生活や遊びに取り入れていくことを通して発達していく。そして、その自然に触れその面白さや不思議さに心を動かし、豊かな心を育てていくと考える。

今年度は昨年度までに作成した指導計画を実践し、幼児にとって魅力的な教師の援助や具体的な環境を工夫に努め、テーマに迫りたいと考えた。

そのために次のような活動を実践した。

① 園内の身近な自然に親しみをもつ活動

- 自分たちで買ってきた花や野菜の苗、種を育て成長する様子を観察した。また、育てた野菜を収穫して食べた。成長の様子を観察する中で気付いたことや、リボンを使って植物が成長していく長さを測ったものを掲示した。その中で一人の気づきがクラスの気づきとなり、みんなで知る楽しさを味わうことができた。また、“どうなるだろう”“知りたい”という幼児の好奇心をくすぐり、じっくり見たり自ら考えたことを友達と伝え合ったりすることができた。

- ・ 保護者の方に協力を依頼し、園内の木の名前やその木のエピソードを絵や文字にかいたプレートを作成していただき取り付けました。3, 4 歳児の子どもたちも“桜”の木だけでなく、“けやき”や“くすのき”などにも自分たちと同じように名前があることを知り、親しみをもつことができた。
- ・ 園内でネイチャーゲーム「しぜんのたからものさがし」を行なった。3～4 人の友達と一緒に諸感覚を使って、葉や実のにおい、形、手触りなどを感じることができ、園内の自然にかかわることの楽しさを味わうことができた。

② 地域の自然環境も取り入れた活動

- ・ 保護者サポーターと一緒に地域の自然が手つかずで残っている熊野社への散歩を年間を通して計画し、四季の自然の移り変わりを諸感覚を通して感じたり、自分たちの住んでいる地域に豊かな自然があることに気付いたりすることができた。
- ・ 環境サポーターを招き、木の実の話の聞いたり、どんぐりを使った遊びを実際に教えてもらったりした。身近な自然の面白さや不思議さを感じることができた。

①



②



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 遊びを通して)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

名古屋市が毎月発行している“エコキッズ”の印刷物を学級指導の中に取り入れている。

また、学年の育ちに合わせて、自然に関心をもつことができるような絵本を取り上げている。

（例えば）「どこでおひるねしようかな」「いつかどんぐりの木が」

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

３年間のＥＳＤの取り組みを通して明らかになったことを共通理解し、本園の指導計画に位置付け、計画的に指導計画を保育に生かして実践している。

その指導計画を元に、学年の意図的、計画的な教師の援助や環境の構成を考えている。また、週案にも生かしている。保育を実践した後、振り返り評価をし、指導計画を見直している。

また、計画的に他機関と連携し、地域や園内の自然を積極的に取り入れて、教師自身がＥＳＤについての知識を深め、指導方法がより工夫できるように努めている。

幼児教育の学びが小学校の学習にどうつながるかを理解し、連携や見通しについて考えている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

小学校の先生を招いて現職教育を行い、幼児期に経験していることが小学校の学習にどうつながっているかを教科書や学習指導要領と照らし合わせ考える機会を昨年度もった。そこで、今大切にすべきことを理解して指導計画を見直し、実践に役立てていくことが小学校教育へのなめらかな接続になることを学んだので、本年度も継続して取り組んでいる。

ＥＳＤ教育は幼児期だけで育てるものではなく、生涯を通して育むものであることを職員で共通理解し取り組んでいる。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部／外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

保護者には、毎月発行している“月のたより”でその時期のねらいや子どもたちの日ごろの姿を通して具体的な取り組みを伝えている。学校評議委員会でも具体的な取り組みの姿を報告している。年度末にはアンケートを実施し、評価をいただき、“幼児期に地域の神社や公園に出かけるのは大切な経験である”“地域の神社に出掛けたり野菜を自分たちで育てたりする体験は今後も園の取り組みで継続していくとよい”という意見をいただいた。今後も地域の自然環境を生かしながら、幼児の発達を見通し指導計画を見直していきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（２００字程度） ※チェック事項 2-2 に対応

今年度は公開保育及び研究会を行い、名古屋市の幼稚園教諭や保育士の方に、本園のESDへの実践を伝える機会をもった。また、環境コーディネーターを招き講演会を主催した。教師間で、幼児が心を揺らす体験をするための意図的、計画的な教師の援助や環境の構成や指導計画を見直す機会になった。小学校の初任者研修では、本園のESDの取り組みや実践を伝える機会をもった。小学校の教科にどのようにつながっていくかを互いの立場から確認し合うことができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（２００字程度） ※チェック事項 2-3 に対応

特にありません。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（２００字程度） ※チェック事項 2-4 に対応

特にありません。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

特にありません。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400 字程度）

今年度までに明らかになったことを保育の実践に生かして取り組んでいきたいと考える。また、外部講師や地域の方、保護者の力を取り入れて、様々な人とのかかわりを通して、幼児がより深く ESD 教育を学んでいくことができるように努めていきたい。

小学校教科とのつながりについては、小学校の先生方と話をする機会を設けたり、研修会に参加したりして教師自身研鑽を重ねていきたい。